

2016年度コンサート活動レポート 「追手門とクラシック」

客員教授 門 田 展 弥

2016年度は10月1日と12月6日の2回、追手門学院大学学生会館大ホールにおいてコンサートを開催しました。大阪城スクエアを拠点としていた前年度までに比べると回数は減りましたが、いずれも追手門ならではの大変ユニークなコンサートを開催できたのではないかと考えています。

先ず10月のコンサート「歩く詩人 ワーズワスと芭蕉にちなんで」ですが、これは兵庫県伊丹市の柿衛文庫で開催された秋季特別展「歩く詩人 ワーズワスと芭蕉」の館外関連イベントとして企画実施されました。この展覧会は日本で初めて公開されるイギリスの国民的詩人ワーズワスの手稿と芭蕉の作品が同時展示されるという画期的歴史的なものでしたが、二人の偉大な詩人の真筆展示だけでなく、両詩人の作品をモチーフとしたアートを日英の現代アーティストが競作するという国際的プロジェクトでもありました。当該コンサートはこの展覧会に呼応し、「第一部：ワーズワスと芭蕉にまつわる音楽」、「第二部：日英現代作曲家による新作初演」という二部構成で行われました。初めて邦楽をプログラムに取り入れたり、日英の作曲家に新作を委嘱するなど、追手門学院で開催した数多くのコンサートの中でも類例をみないユニーク且つ大規模なコンサートとなりました。その成果に対しては、柿衛文庫や英国のワーズワス・トラスト、そしてアートプロジェクトを主導したサンダーランド大学からも高い評価を受けました。



続いて12月には4回目となるキャンドルナイトコンサートを開催しました。今回は天候に恵まれ、コンサート後ホールを出るとキャンドルが点灯しているという大変印象深いものでした。キャンドルナイトコンサートでは毎年外来のアーティストを招聘してきましたが、今回は以前にも出演して頂いたことのあるイタリア出身の優れたクラリネット奏者、ロムアルド・バローネ氏とご令嬢エレナさん（ヴァイオリン）をゲストに迎え「日本イタリア音楽家交流コンサート 新たなるコラボへの試み」と題して実施しました。前半ではバローネ氏の友人でイタリア、フロジノーネ音楽院元院長アントニオ・ダント氏作曲『クラリネットソナタ（日本初演）』、及び拙作『クラリネット、チェロ、ピアノのための三重奏曲（改定初演）』、後半ではバッハやショパン、プッチーニ等の名作が演奏され、大学開催に相応しく啓蒙的でありながらクラシックの楽しさを満喫できる内容になりました。



さて、このキャンドルナイトコンサートは追手門学院が長年開催してきたファミリークラシック、アドバンストリサイタル等様々なコンサートの最後を飾るものでしたが、奇しくもそれは前身となる2007年7月の第1回毎日文化センタークラシックから数えてちょうど100回目に当たるものでした。これまで月刊『音楽現代』誌等で幾度か取り上げられましたが、これらのコンサートが関西のみならず全国の音楽家に多くの演奏機会を与え、外来演奏家との共演機会をもたらしたことは正に特筆に値することでしょう。音楽家育成を目的とする音楽大学が音楽家のサポートを行うことは原則ありませんし、できることでもありません。ましてや出身校の垣根を超えたサポートなどあり得ないことです。他方、音楽界では常識となっているチケットノルマを課さず演奏に専念できる環境をつくったことも稀有な例と言えるでしょう。単にクラシックコンサートを広く一般市民に開放し、クラシックの普及に貢献しただけではありません。この先進的事業が日本音楽界にもたらしたインパクトは一つの革命と言っても過言ではなく、今後も長く記憶されるものと確信しています。